

ヒトは、なぜ直立歩行をするようになったの？

「直立歩行 - 進化の鍵 - 」を読んだ。様々な学問の学説、研究データを紹介しながら、ヒトを人たらしめた直立歩行が「いつ、どこで、どのようにして、どういう理由から」という謎に挑んだアメリカの学者の著書。

研究仲間の報告検証から新たな解釈を挑むだけに、研究者名、研究機関等名、学術名、化石の発見場所名、等々、日本語にはやたらとカタカナが多く出てきて、自分のような素人向きでないと思いながら、一応読んだ。

現在の我々の祖先と思われる人類？が現れたのは、たかが50万年前。直立歩行に関連する類人猿？の化石標本研究は、5～600万年前に遡る話。時空が実感できないので、ピンとこない。

要は、よく聞くアフリカ大陸の地殻変動でサウアンナ（草原地帯）が増えた環境変化故に、ヒトは直立歩行を進化させてきたというような「ただ一つの理由で、あるいはただ一つのステップで二足歩行が現れたという観念を振り捨てることだ。」といたいようである。そして、「二足歩行は、数百万年かけて形づくられた手の込んだ芸術作品。」という。

確かに、紹介データ、色んな研究者の学説紹介、それら学説の検証・疑問・解釈等々から、単に「フーン、そうなの～」と知るだけでも、解剖学的な側面一つとっても、「人間が二足歩行できるという仕組みは凄い！」と改めて思う。また、「言語が、直立歩行の発生にともなう驚くべき偶然によって生じた副産物。」は興味あった。

更に、動物行動学からも色々検証・解説されていたが、チンパンジ - とゴリラの行動の違いなど初めて知ることもあり、面白かった。チンパンジ - やゴリラ等の四足歩行は、「ナックルウォーク」と呼ぶとか。

物事に科学性がないと、あらぬ不安、懐疑、不信、デマ、差別を招きかねないが、自分のような凡人は、「直立歩行の源を、なんで5～600万年前まで遡って科学的に知る必要があるの？」と聞きたくもなる。

やはり、「科学する」って、人間の「未知なることを知りたい」という欲望故の「ロマン」もあるのかなあ～。

かくいう自分も、「ヒトだけがどうして直立歩行？」を知りたくて購読したのだから、「ロマン」を追っていることになるのかな？

(2005年3月17日 記)